



写真2 アジア地方学と地方文化学術研究会第一回大会の参加者らとの集合写真



写真3 第39回北京モンゴル族ナーダムでの撮影

機会があればモンゴル族の住む各地域で食文化に関する調査を行いたいという思いが前より強くなった。

今回の訪問で中国北京師範大学文学院民間文学研究所の万建中教授にはお忙しいなか時間を取って丁寧にご指導をいただいた。またチューターの劉珊珊さん、神奈川大学非文字資料研究センター事務室の成田紅音さん、荒川隆さんと川辺夏枝さんにいろいろ助けていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。最後に、派遣研究員という機会をいただき、お世話になった非文字資料研究センターの皆さまに心よりお礼申し上げます。

異文化の体験

英 萄

(歴史民俗資料学研究科 博士後期課程)



私は、2020年2月に非文字資料研究センターの派遣研究員としてカナダ・バンクーバーのUBCを訪問した。そのバンクーバーで、チベット仏教に関する文献資料を収集し、チベット仏教寺院の調査を行った。現在、バンクーバーにはチベット仏教ゲルク派の参智寺やカギユ派の寺院創古寺、八蚌遍徳昆治西藏仏学センターがある。参智寺と創古寺での調査は実施できた。しかし、八蚌遍徳昆治西藏仏学センターは、新型コロナウイルスの影響で閉館していたため、調査することができなかった。2020年2月24日はチベット暦の新年であり、参智寺と創古寺において新年

法会が行われた。二つの寺院の新年法会の実施する時間は異なっていた。私は時間の都合により、創古寺の新年法会に参加した。

創古寺(Thrangu Monastery)は、ブリティッシュコロンビア州西南部に位置するリッチモンド市にある。北米における、最初の伝統的なチベット仏教寺院である。新年法会は創古寺の2階にある大雄宝殿で行われた。新年法会の準備は前日から行われている。前日にはカプセ(揚げ菓子)などのお祝いの料理が用意される。当日の朝8時には、バター茶やご飯などを用意する。そして、大雄宝殿の



釈迦牟尼仏像の前に祭壇を置き、その上に供物を供える。9時前になると、参加者の人々が集まってくる。参加者は、概ね在カナダのチベット人であるが、カナダ人や中国人もいる。9時になると、新年会が始まる。まず、僧侶と参加者、全員が釈迦牟尼仏像に礼拝する。その後、僧侶たちは席に着き、読経を始める。このとき、参加者たちは仏像にハダ（儀礼に用いられる伝統的なシルクスカーフ）と供物を捧げ、跪拝する。大勢の人が集まり、殿内には長い行列ができていた（写真1）。次に、ボランティアが僧侶や参加者にお菓子やバター茶、ご飯を配る。僧侶たちは、バター茶とご飯に関する経文を唱え、その後、それを食する。次に、チベット人にとって縁起物であるチェマを加持する。チェマは、木でできた矩形の器で、そこに大麦とツァンパ（チベット人の伝統的な食べ物）を入れ、その上に色付けされた穂やハダカムギと酥油でつくられた「孜珠」を刺して飾る（写真2）。チェマは、吉祥と五穀豊穰を象徴している。最後に、僧侶と参加者が寺院の前に集まり、寺院に掲げられていたタルチョー（経幡）を新しいものに取り換える。その後、空にツァンパを撒くという行事が行われる。人々はツァンパを手に取り、「タシデレ」（幸せでありますように）と言いながらツァンパを空に撒く。この行事には、新しい年の無病息災を祈るという意味がある。また、この行事は、僧侶が吹くビュレー（ラッパ）やヘングリック（太鼓）の音が響き渡る中で行われる。新年法会は12時ごろ終了した。その後、寺院の食堂で新年を祝う会が行われた。ここでは、歌を歌い、ダンスをして、お祝いする。最後に食事をし、解散となる。私は初めてチベットの儀礼行事に参加し、初めてチベット人の伝統的な飲み物や食べ物をいただき、チベット人の歌とダンスを楽しんだ。そして、チベット人の習慣や習俗を理解することができた。

また、ロイヤルブリティッシュコロンビア博物館を見学した（写真3）。それは、ブリティッシュコロンビア州の自然や歴史を見られる場所である。博物館の1階でチケットを購入する。展示エリアは2階からになる。2階は、氷河期時代からの自然史ギャラリーであり、原始森林や動物を眺めるだけではなく体験型の展示である（写真4）。3階は、原住民族ギャラリーであり、その歴史と文化が紹介されている。そこでは、トーテムポールや様々な儀式用具が展示されている。また3階では、古い時代の町並びが再現されている。商店、ホテル、工場、農場など様々な所が展示され、そこを歩いていくとタイムスリップした感じがした。この博物館を約3時間歩き回り、その貴重な展示物に驚いた。また、原住民のことについて非常に勉強になった。

そのほか、バンクーバー美術館、UBC ベイティ生物多様性博物館、UBC 人類学博物館などを見学した。カナダの滞在では異民族を理解し、異文化を体験することができた。今回の訪問では、UBC アジア学科の許南麟先生と Tsering Shakya 先生に指導していただいた。また、UBC アジア学科の学生や調査先の多くの人々に助けていただいた。心より感謝申し上げます。



写真1 仏像に拝礼する人々（2020年2月24日撮影）



写真2 チェマ（2020年2月24日撮影）



写真3 ロイヤルブリティッシュコロンビア博物館（2020年2月23日撮影）



写真4 自然史ギャラリーの入り口（2020年2月23日撮影）